

# 経営協議会資料

## － 令和 5 年度決算見込みについて －

### ●総括

#### － 水道事業 －

収益的収支については、水道料金が人口減少による影響はあるものの、令和 4 年台風第 15 号の水道料金減免の影響がなくなり前年度より増収となりました。一方で、承元寺取水口災害復旧修繕（債務負担行為）の完了に伴う修繕費の増加、水道施設の機械設備等の供用開始に伴う減価償却費の増加により支出総額も増加となりましたが、結果として 1,718 百万円（前年度比 +21 百万円）の純利益が生じました。

資本的収支については、管の老朽化対策である管路更新事業による建設改良費の増加に伴い企業債発行額が増加し、収入、支出ともに前年度から増加しています。

#### － 下水道事業 －

収益的収支については、下水道使用料が人口減少の影響はあるものの、水洗化率の向上により前年度並みの収入となり、一般会計繰入金等を合わせた収入総額は前年度より増加しました。一方で、労務単価の上昇による委託料の増加や、下水道施設の供用開始に伴う減価償却費の増加等により支出総額も増加となりましたが、結果として 971 百万円（前年度比 +152 百万円）の純利益が生じました。

資本的収支については、下水道管の改築工事等の老朽化対策のほか、浸水対策や地震対策を実施し、建設改良費は増加しましたが、有価証券への投資額の減少により支出総額は前年度から減少しています。

### ●用語等の解説

#### － 水道事業及び下水道事業の収支について －

水道事業や下水道事業は、使用者からの「水道料金」や「下水道使用料」でその経費をまかなう「独立採算制」を経営の原則としています（浸水対策など雨水処理に係る経費などの一部は税金が充てられます）。その会計処理は、民間企業と同じような企業会計制度が採用されており、「収入」と「支出」が「収益的収支」と「資本的収支」の二つに区分されているのが大きな特徴です。

#### － 収益的収支 －

「収入」は水道料金又は下水道使用料などの事業収益で、「支出」は人件費・光熱水費・修繕費・減価償却費・支払利息などの事業費用で構成されています。その収支の差引がいわゆる「黒字」、「赤字」と言われるもので、黒字の場合、その利益は減価償却費などの現金支出に充てた現金収入とともに企業内部の補てん財源となり、将来の資本的支出のために使われます。

#### － 資本的収支 －

建設改良（新設、老朽化対策、浸水対策など）や企業債（借入金）の償還などの「支出」と、その財源となる国庫補助金や企業債の借入れなどの「収入」により構成されています。通常、資本的収支は支出が収入を上回るため、その不足分は収益的収支によって生み出された企業内部の補てん財源を充当します。



# 上下水道局 令和5年度決算見込み・主な実施事業

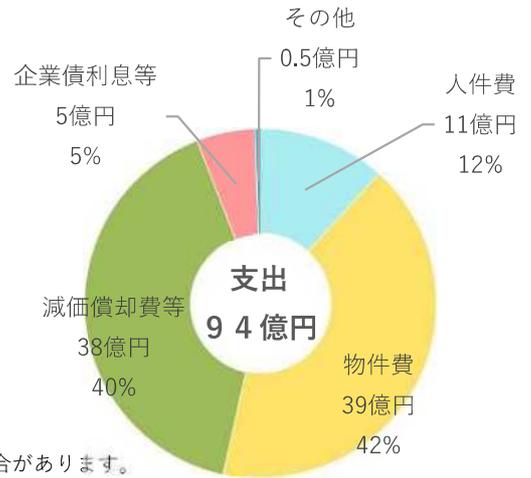
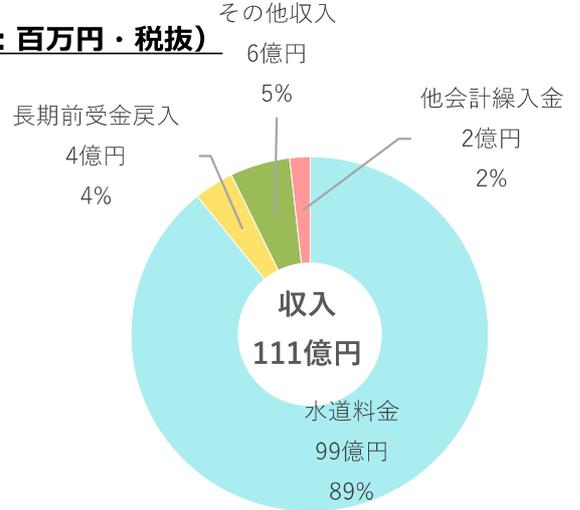
## 1 水道事業

### (1) 収益的収支（維持管理の収支）

- ・令和4年台風第15号による断水及び浸水被害に伴う令和4年度の水道料金減免の影響がなくなったことに伴い、前年度より水道料金が増加した。
- ・清水谷津浄水場排水処理機械設備（汚泥脱水機）等更新工事による機械設備等の供用開始に伴い、減価償却費が増加した。

#### ●R5決算見込み額と予算額、R4決算額との比較（単位：百万円・税抜）

	項目	R5決算見込み額と予算額、R4決算額との比較				
		予算額①	R5決算見込み額②	R4決算額③	対予算②-①	対前年度決算額②-③
収益的収入	水道料金	10,033	9,874	9,736	▲ 159	138
	長期前受金戻入	412	405	420	▲ 7	▲ 15
	その他収入	640	594	629	▲ 46	▲ 35
	他会計繰入金	214	201	194	▲ 13	7
	<b>収入計</b>	<b>11,299</b>	<b>11,074</b>	<b>10,979</b>	<b>▲ 225</b>	<b>95</b>
収益的支出	人件費	1,118	1,093	1,061	▲ 25	32
	物件費※	4,180	3,920	3,866	▲ 260	54
	減価償却費等	4,164	3,795	3,707	▲ 369	88
	企業債利息等	502	501	549	▲ 1	▲ 48
	その他	124	47	99	▲ 77	▲ 52
	<b>支出計</b>	<b>10,088</b>	<b>9,356</b>	<b>9,282</b>	<b>▲ 732</b>	<b>74</b>
	<b>収支</b>	<b>経常損益</b>	<b>1,211</b>	<b>1,718</b>	<b>1,697</b>	<b>507</b>



※物件費：動力費、修繕費、委託料等

※各金額を百万円未満四捨五入で表記しているため、合計額や差引が一致しない場合があります。

※決算見込みについて、R4からR5への繰越額も含まれます。

※R4決算額：水道料金に水道料金減免分は含めずその他収入に含む。含む場合の水道料金は、9,934百万円となる。



#### <水道料金>

令和2年10月に実施した料金改定により増加していましたが、令和4年度以降は令和4年台風第15号による水道料金減免の影響を除くと人口減少に伴い減少傾向となっており、今後も減少が見込まれます。

#### <その他収入>

令和4年度は水道料金減免分に対する一般会計負担金により増加しています。令和5年度は前年度より減少したものの、承元寺取水口修繕に係る国庫補助金により過去5年間の中では高い値となっています。

#### <物件費>

物価高騰による動力費の増加や労務単価上昇による委託料の増加に伴い、増加傾向にあり、今後も増加が見込まれます。

#### <企業債利息等>

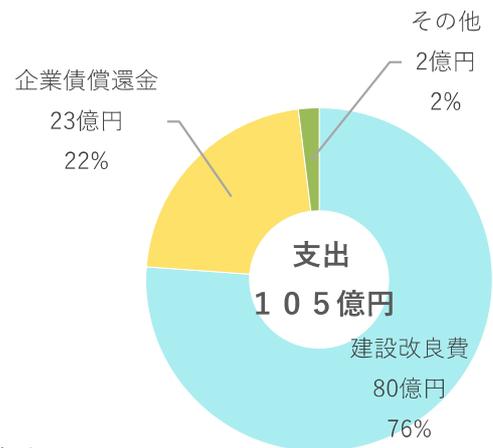
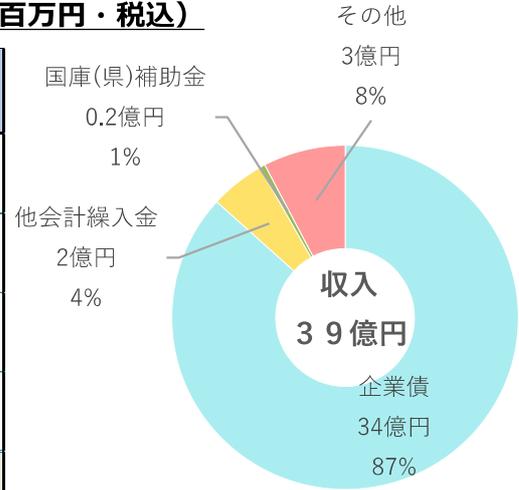
未償還残高の平均利率が低下していることにより、過去5年間減少し続けています。

## (2) 資本的収支（建設投資の収支）

- ・建設改良費の増加に伴い、企業債発行額が増加し資本的収入が前年度決算と比較して増加した。
- ・企業債の借入は前年度より増加しているが、企業債償還金は減少している。

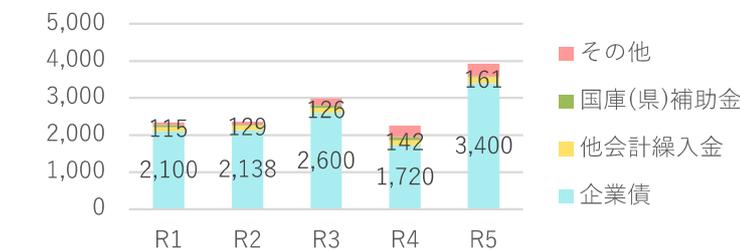
### ●R5決算見込み額と予算額、R4決算額との比較（単位：百万円・税込）

資本的収入	項目	予算額①	R5決算見込み額②	R4決算額③	対予算②-①	対前年度決算額②-③
	企業債	5,484	3,400	1,720	▲ 2,084	1,680
	他会計繰入金	161	161	142	0	19
	国庫(県)補助金	108	20	84	▲ 88	▲ 64
	その他	386	345	313	▲ 41	32
<b>収入計</b>	<b>6,139</b>	<b>3,926</b>	<b>2,259</b>	<b>▲ 2,213</b>	<b>1,667</b>	
資本的支出	項目	予算額①	R5決算見込み額②	R4決算額③	対予算②-①	対前年度決算額②-③
	建設改良費	11,950	7,967	6,706	▲ 3,983	1,261
	企業債償還金	2,317	2,317	2,421	0	▲ 104
	その他	200	200	200	0	0
<b>支出計</b>	<b>14,467</b>	<b>10,484</b>	<b>9,327</b>	<b>▲ 3,983</b>	<b>1,157</b>	



※各金額を百万円未満四捨五入で表記しているため、合計額や差引が一致しない場合があります。  
 ※決算見込みについて、R4からR5への繰越額も含まれます。

### 資本的収入（税込み）



#### <企業債>

令和4年度は、対象事業費の決算額が減少したこと、充当率を下げたことにより大きく減少していますが、企業債の借入額は、建設改良費の増加に伴い増加傾向となっています。

#### <他会計繰入金>

令和3年度まで横ばいで推移していましたが、緊急地震・津波対策等交付金の増加で令和4年度及び令和5年度は増加しました。

#### <建設改良費>

管路更新事業の増加に伴い工事請負費が増加し、建設改良費が令和2年度から増加し続けているため、今後も増加が見込まれます。

#### <企業債償還金>

令和4年度までは増加していますが、令和5年度は、元利均等払いにおける元金の割合が減少したことにより減少しました。

### 資本的支出（税込み）



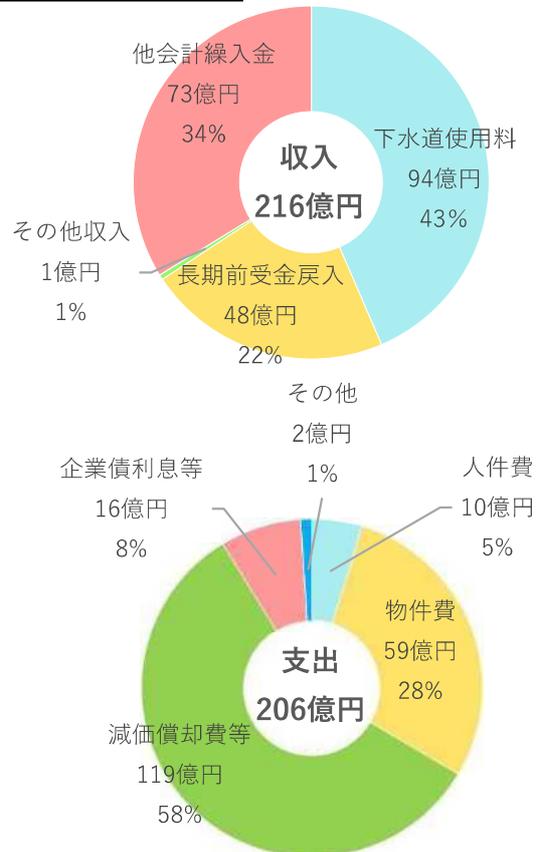
## 2 下水道事業

### (1) 収益的収支（維持管理の収支）

- ・人口減少の影響はあるものの、水洗化率の向上により下水道使用料は前年度並みとなった。
- ・高橋雨水ポンプ場等の下水道施設の供用開始に伴い、減価償却費が増加した。
- ・電気料金の高騰は抑制されたが、労務単価の上昇により委託料が増加し、物件費が増加した。

#### ● R5決算見込み額と予算額、R4決算額との比較（単位：百万円・税抜）

	項目	R5決算見込み額と予算額、R4決算額との比較				
		予算額①	R5決算見込み額②	R4決算額③	対予算②-①	対前年度決算額②-③
収益的収入	下水道使用料	9,522	9,426	9,431	▲ 96	▲ 5
	長期前受金戻入	4,763	4,759	4,617	▲ 4	142
	その他収入	68	112	105	44	7
	一般会計繰入金	7,439	7,314	6,705	▲ 125	609
	<b>収入計</b>	<b>21,792</b>	<b>21,611</b>	<b>20,858</b>	<b>▲ 181</b>	<b>753</b>
収益的支出	人件費	1,024	1,004	913	▲ 20	91
	物件費※	6,605	5,914	5,793	▲ 691	121
	減価償却費等	11,931	11,916	11,366	▲ 15	550
	企業債利息等	1,628	1,620	1,759	▲ 8	▲ 139
	その他	51	186	208	135	▲ 22
	<b>支出計</b>	<b>21,239</b>	<b>20,640</b>	<b>20,039</b>	<b>▲ 599</b>	<b>601</b>
	収支	<b>経常損益</b>	<b>553</b>	<b>971</b>	<b>819</b>	<b>418</b>

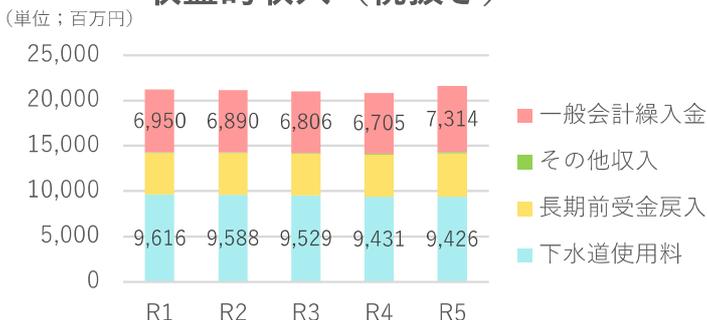


※物件費：動力費、修繕費、委託料等

※各金額を百万円未満四捨五入で表記しているため、合計額や差引が一致しない場合があります。

※決算見込みについて、R4からR5への繰越額も含まれます。

### 収益的収入（税抜き）



### 収益的支出（税抜き）



#### <下水道使用料>

過去5年間は横ばいで推移しているものの、人口減少に伴い減少傾向となっているため、今後も減少が見込まれます。

#### <一般会計繰入金>

令和4年度までは、企業債利息の支出額の減少等により約1億円ずつ減少し続けていましたが、令和5年度は雨水ポンプ場の供用開始等により雨水処理負担金が増加し、繰入金全体も増加しています。

#### <物件費>

令和4年度は電気料金の高騰による動力費の増加、令和5年度は労務単価の上昇による委託料の増加により、近年は増加傾向にあります。

#### <減価償却費>

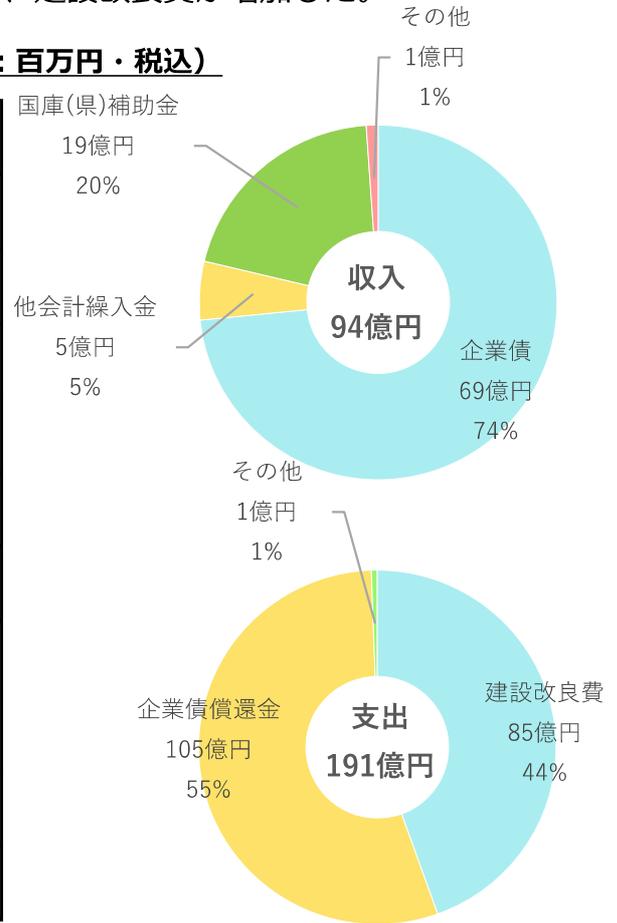
令和4年度までは横ばいで推移していましたが、令和5年度は供用開始した雨水ポンプ場等の影響により増加しています。

## (2) 資本的収支（建設投資の収支）

- ・起債対象事業の減少に伴い、企業債借入額が減少した。
- ・国庫補助事業の減少に伴い、国庫補助金収入額が減少した。
- ・建設改良委託が増加したことにより委託料が増加し、建設改良費が増加した。

### ● R5決算見込み額と予算額、R4決算額との比較（単位：百万円・税込）

	項目	予算額①	R5決算見込み額②	R4決算額③	対予算②-①	対前年度決算額②-③
資本的収入	企業債	12,826	6,902	7,136	▲ 5,924	▲ 234
	一般会計繰入金	524	524	569	0	▲ 45
	国庫(県)補助金	3,247	1,903	2,094	▲ 1,344	▲ 191
	その他	72	59	145	▲ 13	▲ 86
	<b>収入計</b>	<b>16,669</b>	<b>9,388</b>	<b>9,944</b>	<b>▲ 7,281</b>	<b>▲ 556</b>
資本的支出	建設改良費	15,246	8,509	8,222	▲ 6,737	287
	企業債償還金	10,487	10,487	10,260	0	227
	その他	100	100	1,100	0	▲ 1000
	<b>支出計</b>	<b>25,833</b>	<b>19,096</b>	<b>19,582</b>	<b>▲ 6,737</b>	<b>▲ 486</b>



※各金額を百万円未満四捨五入で表記しているため、合計額や差引が一致しない場合があります。  
 ※決算見込みについて、R4からR5への繰越額も含まれます。

### 資本的収入（税込み）



#### <企業債>

企業債の借入額は、減少傾向となっている。特に、令和4年度及び令和5年度は、起債対象事業費が減少したことに伴い、下水道事業債の借入額が大きく減少しています。

#### <国庫(県)補助金>

企業債と同様に、国庫補助事業費が減少したことにより、国庫補助金収入が減少しています。

### 資本的支出（税込み）



#### <建設改良費>

令和4年度は、浸水対策事業の減少等に伴い減少したものの、令和5年度は地震対策事業の増加等に伴い増加しています。

#### <企業債償還金>

企業債の償還年次が進み、未償還残高が減少しているため、償還金は減少傾向にあります。令和5年度は、平成25年度に借入した下水道事業債の未償還残高を、一括償還したことにより増加しています。

### 3 主な事業

#### 政策1 危機管理を強化する。

##### 水道

#### ○重要な管・施設の強靱化（決算額 4.3億円）

・地震災害の被害を最小限にするとともに、迅速な対応により早期の機能回復が可能となるよう、基幹管路（重要な水道管）や重要な配水施設を耐震化

##### <実施した主な事業>

- ・水道管の減災対策 1.2億円（1.2km）、令和6年度への繰越 3.3億円  
日本平公園整備事業に伴う送水管布設替工事（他1件）

##### <成果指標：基幹管路の耐震管率>

目標値	実績値	成果指標 達成状況
41.8%	41.8%	100%

※算出式は、資料3「事務事業評価シート」P3参照



日本平公園整備事業  
(基幹管路の耐震化)

##### 下水道

#### ○重要な管・施設の強靱化（決算額 11.9億円）

・地震災害の被害を最小限にするとともに、迅速な対応により早期の機能回復が可能となるよう、特に重要な下水道管を耐震化

- ・津波発生時に下水道管内の津波遡上を防ぐよう、雨水管吐口にゲートを設置

##### <実施した主な事業>

- ・下水道管の地震対策 9.2億円（5.4km）、令和6年度への繰越 9.8億円  
高松処理区（本通地区ほか）、中島処理区（聖一色地区ほか）  
などで管の耐震化工事を実施

##### <成果指標：特に重要な下水道管の工事に係る耐震管率>

目標値	実績値	成果指標 達成状況
70.2%	70.7%	100.7%

※算出式は、資料3「事務事業評価シート」P7参照



高松処理区の耐震管工事

#### ○浸水対策（決算額 21.2億円）

- ・雨水管、ポンプ場などの整備を進め、速やかに雨水が排除されることで浸水被害を軽減

##### <実施した主な事業>

- ・雨水管、ポンプ場などの整備 19.6億円（198m）、令和6年度への繰越 16.4億円  
城北排水区 唐瀬1号雨水幹線築造工事  
巴川右岸第2排水区 渋川雨水ポンプ場土木工事  
大沢排水区 大沢雨水1号幹線築造工事

##### <成果指標：浸水対策率（対策完了地区数）>

目標値	実績値	成果指標 達成状況
65.3% (17地区)	65.3% (17地区)	100%

※算出式は、資料3「事務事業評価シート」P11参照



唐瀬1号雨水幹線推進機

## 政策2 持続可能に管・施設を運用する。

### 水道



#### ○管・施設の老朽化対策（決算額 52.5億円）

- ・ 管の更新により、漏水による事故や濁水の発生を軽減
- ・ 法定耐用年数を超えた設備を適切に維持管理し、水道の給水停止を未然に防ぐ

##### <実施した主な事業>

- ・ 水道管の更新 48.7億円（28.0km）、令和6年度への繰越 22.3億円  
葵区千代田五丁目外配水管布設替工事など 計46件
- ・ 水道施設の更新 3.7億円（5箇所）、令和6年度への繰越 3.9億円  
柳町取水場外5施設計測設備更新工事など 計5件

##### <成果指標：管路の更新率(年間)>

目標値	実績値	成果指標 達成状況
1.0%	1.1%	110%

※算出式は、資料3「事務事業評価シート」P19参照



老朽化した水道管の布設替えの様子

#### ○安全でおいしい水の安定的な供給（決算額 2.0億円）

- ・ 水質への不安を払拭する等のため、道路部分に残存する鉛製給水管を解消

##### <実施した主な事業>

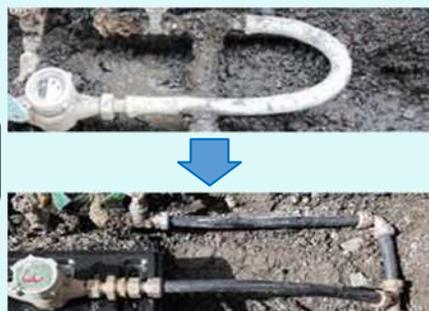
- ・ 鉛製給水管の更新 1.8億円  
鉛製給水管更新修繕など 3,802箇所

##### <成果指標：鉛製給水管率>

目標値	実績値	成果指標 達成状況
6.0%	6.0%	100%

※算出式は、資料3「事務事業評価シート」P37参照

鉛製給水管の施工更新前後



### 下水道

#### ○管・施設の老朽化対策（決算額 35.4億円）

- ・ 法定耐用年数を経過した管、標準耐用年数を経過した資産を中心に実施した調査・点検に基づく改築を行い、経年劣化による事故等を未然に防止

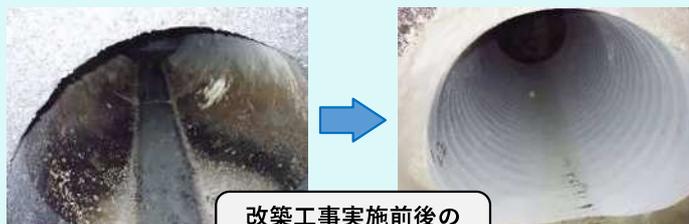
##### <実施した主な事業>

- ・ 下水道管の改築 15.9億円（8.8km）、令和6年度への繰越 3.0億円  
高松処理区（鷹匠地区ほか）、城北処理区（東深草町地区ほか）などで管の改築工事を実施
- ・ 下水道施設の改築 12.7億円、繰越 14.5億円  
長田浄化センター監視制御設備改築工事  
中島雨水ポンプ場流入ゲート設備改築工事

##### <成果指標：管きよ100km当たりの陥没箇所数>

目標値	実績値	成果指標 達成状況
0.4箇所以下 /100km	0.44箇所 /100km	90.9%

※算出式は、資料3「事務事業評価シート」P23参照



改築工事実施前後の下水道管

### 政策3 環境への負荷を軽減する。

#### 下水道

#### ○水環境の保護・改善（決算額 16.6億円）

- ・公共用水域の水質保全や公衆衛生の向上

#### <実施した主な事業>

- ・中島処理区（服織地区、大谷地区ほか）
  - ・静清処理区（長崎地区、飯田地区ほか）
  - ・北部処理区（西久保地区）
- 20haを整備 9.2億円、令和6年度への繰越 7.7億円  
令和5年度末 接続戸数 267,454戸（前年度比+2,825戸）

#### <成果指標：水洗化率（戸数）>

目標値	実績値	成果指標 達成状況
91.4%	91.8%	100.4%

※算出式は、資料3「事務事業評価シート」P41参照



下水道管布設（開削工法）

### 政策4 お客さまサービスを向上させる。

#### 水道・下水道

#### ○接客・窓口サービスなどの充実

- ・多様化・高度化するお客さまニーズを的確に把握し対応することで、お客さまサービスの向上を図る

#### <実施した主な事業>

- ・上下水道事業検針・収納等業務委託 4.1億円
- ・料金等徴収のキャッシュレス決済推進  
電子マネー支払（LINE Pay・PayPay・auPAY・楽天ペイ・d払い）による請求書払い、銀行口座からの即時引き落とし（楽天銀行コンビニ支払サービス、PayB）5.5億円（7.6万件）※令和5年度収納実績

#### <成果指標：キャッシュレス決済率（収納件数の構成比）>

目標値	実績値	成果指標 達成状況
75.76%	76.46%	100.92%

※算出式は、資料3「事務事業評価シート」P43参照

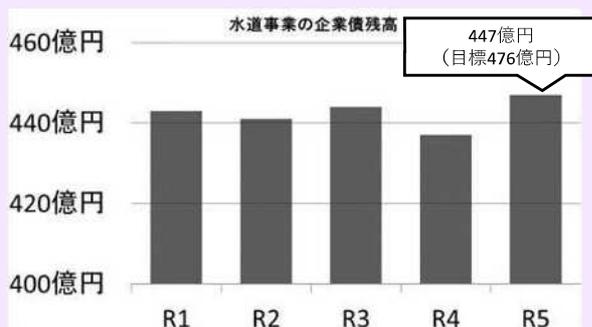


### 政策5 信頼される経営を確立する。

#### 水道・下水道

#### ○財政の健全化

- ・企業債残高の適正な管理 上水道・下水道ともに、目標どおり企業債残高を適正に管理している

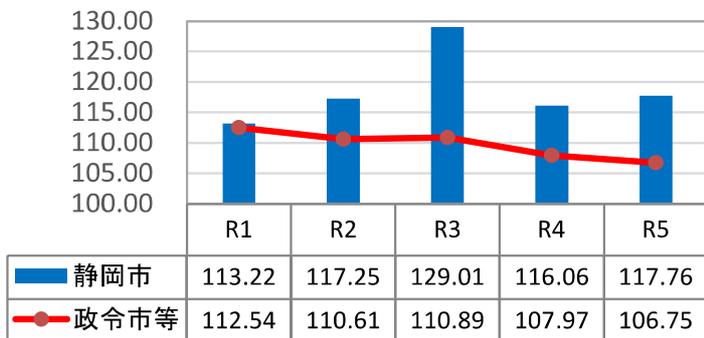


# 1 水道事業の主な経営指標

図1-1

## 経常収支比率(%)

※R5は見込値



<算出式>

$$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100 (\%)$$

<評価>

単年度の経常収支が黒字を表す100%を超えており、令和4年台風第15号の断水及び浸水被害に伴う水道料金の減額の影響が無くなったことにより、令和5年度は前年度より増加しています。

政令市等と比較しても、過去5年間高い数値となっており、健全な経営を続けていると言えます。

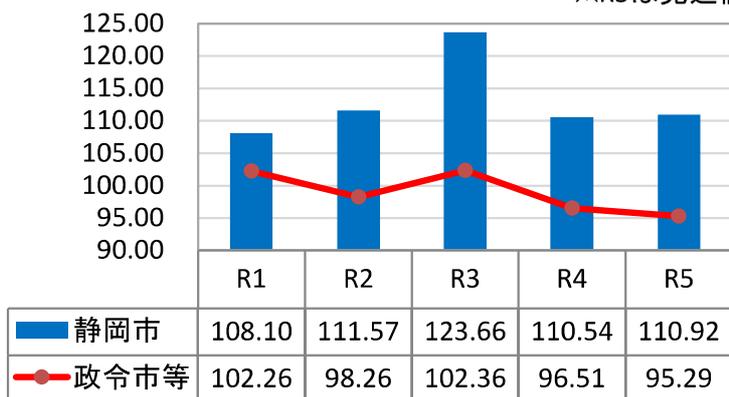
<経常収支比率>

料金収入や他会計からの補助金等の収益で、人件費や支払利息等の費用をどの程度賄えているか表す指標です。

図1-2

## 料金回収率(%)

※R5は見込値



<算出式>

$$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100 (\%)$$

<評価>

政令市等では100%を下回っていることが多くみられますが、静岡市は過去5年間、100%以上を維持しており、健全な経営を続けていると言えます。

<料金回収率>

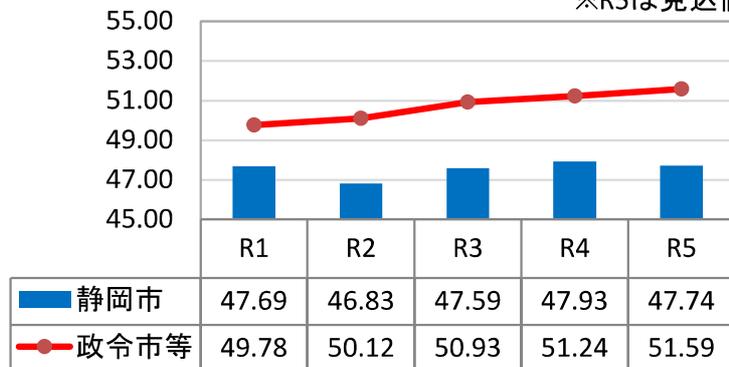
給水に係る費用が、どの程度水道料金で賄えているかを表す指標です。

水道事業は、水道料金をもって経営を行うこととされており、料金回収率は100%を上回ることが望ましいとされています。

図1-3

## 有形固定資産減価償却率(%)

※R5は見込値



<算出式>

$$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100 (\%)$$

<評価>

数値が高いほど法定耐用年数に近い資産が多いことを示しますが、政令市等と比較すると静岡市は低い値となっています。

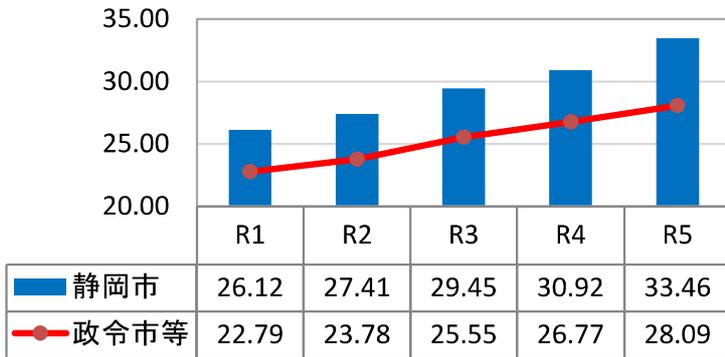
<有形固定資産減価償却率>

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、減価償却の進み具合や資産の老朽化度合を示しています。

図1-4

管路経年化率(%)

※R5は見込値



<算出式>

$$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100 (\%)$$

<評価>

政令市等と比較すると高い値となっており、過去5年間増加し続けています。

法定耐用年数を経過した管路を多く保有しているため、多額の資金を要する老朽化した管路の計画的な更新が本市の課題となっています。

<管路経年化率>

法定耐用年数を経過した管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度合を示します。

図1-5

管路更新率(%)

※R5は見込値



<算出式>

$$\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100 (\%)$$

<評価>

閑散期での工事着手の実施や大規模発注及び概算数量設計による工事発注を新たに実施したことにより、近年上昇傾向となっています。

前年度までは政令市等を下回っていましたが、今年度は政令市等と比較すると高い値となっています。将来の更新需要に備え、アセットマネジメント手法を用い更新時期を平準化させながら更新率を向上させていく必要があります。

<管路更新率>

当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標です。

図1-6

有収率(%)

※R5は見込値



<算出式>

$$\frac{\text{年間総有収水量※}}{\text{年間総配水量}} \times 100 (\%)$$

※有収水量：水道メーターにより計量され、料金収入に結び付く水量のこと

<評価>

漏水量は前年度と比較して減少しましたが、有収率は過去5年間同様に政令市等の中では低い値となっています。

管路更新事業の増加に伴う事業用水量の増加により、有収率は前年度より低い値となりました。今後、有収率の数値をあげることが課題となっており、原因を調査中です。

<有収率>

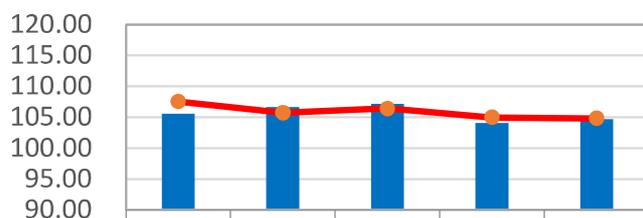
水道施設を通して供給している水がどの程度収益につながっているかを示す指標です。

## 2 下水道事業の主な経営指標

図2-1

### 経常収支比率 (%)

※R5は見込値



静岡市	105.49	106.57	107.13	104.09	104.70
政令市等	107.51	105.73	106.38	104.98	104.82

<算出式>

$$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100 (\%)$$

<評価>

物価高騰等の影響により経常費用が増加し、令和4年度に比率が低下しているものの、単年度の経常収支が黒字を表す100%は継続して上回っているため、健全な経営を続けていると言えます。

また、政令市等と比較しても毎年同水準の推移となっており、健全な経営を続けていると言えます。

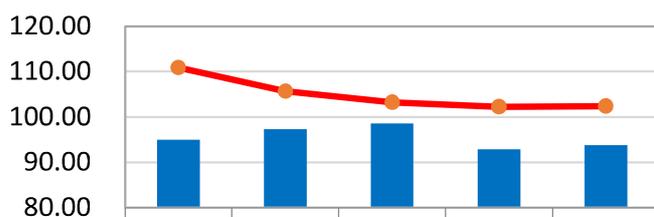
<経常収支比率>

使用料収入や他会計からの補助金等の収益で、人件費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標です。

図2-2

### 経費回収率 (%)

※R5は見込値



静岡市	95.02	97.34	98.58	92.89	93.79
政令市等	110.92	105.67	103.24	102.27	102.43

<算出式>

$$\frac{\text{下水道使用料収入}}{\text{汚水処理経費}} \times 100 (\%)$$

<評価>

100%を超えることが望ましいとされている指標ですが、過去5年間は下水道使用料の減少や物価高騰による汚水処理費の増加等により100%を下回っており、過去2年間は特に物価高騰等の影響を受けています。

また、政令市等と比較しても低い値となっており、コスト削減や新たな収入確保に注力していく必要があります。

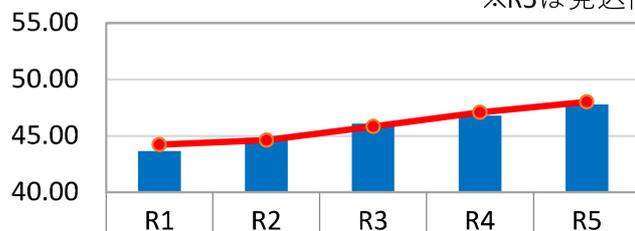
<経費回収率>

汚水処理に係る経費が、どの程度使用料で賄えているかを表す指標です。下水道事業は、下水道使用料をもって経営を行うこととされており、経費回収率は100%を上回ることが望ましいと考えております。

図2-3

### 有形固定資産減価償却率 (%)

※R5は見込値



静岡市	43.68	44.84	46.10	46.80	47.80
政令市等	44.24	44.62	45.84	47.11	48.01

<算出式>

$$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100 (\%)$$

<評価>

数値が高いほど法定耐用年数に近い資産が多いことを示しており、資産の老朽化は徐々に進んでいるものの、政令市等と比較すると同水準で推移しています。静岡市の課題としては、今後急速に進む管渠や施設等の老朽化に向け、対策を講じていくことが挙げられます。

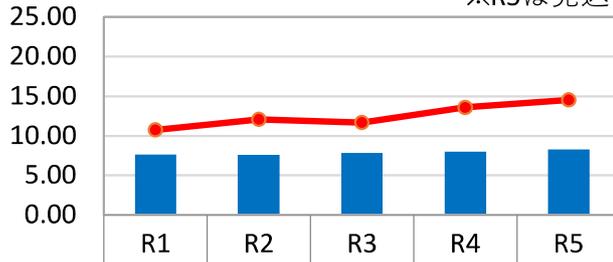
<有形固定資産減価償却率>

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、減価償却の進み具合や資産の老朽化度合を示しています。

図2-4

管渠老朽化率 (%)

※R5は見込値



静岡市	7.63	7.60	7.84	7.97	8.29
政令市等	10.76	12.06	11.69	13.59	14.56

<算出式>

$$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100 (\%)$$

<評価>

数値が高いほど法定耐用年数を経過した管渠を多く保有していることを示しています。政令市と比較すると低い水準となっているため、管渠の状態は良好に保っていると言えますが、将来的には耐用年数に達することから、改築・更新を計画的に実施する必要があります。

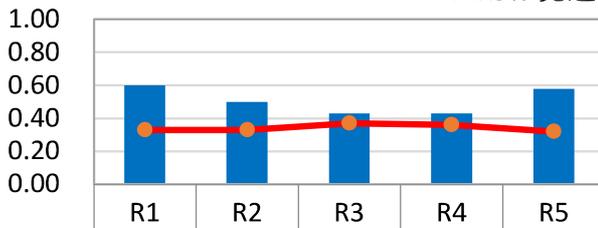
<管渠老朽化率>

法定耐用年数を経過した管渠延長の割合を示す指標で管渠の老朽度合を示します。明確な基準は定められていないため、経年比較や類似団体との比較により状況を把握する必要があります。

図2-5

管渠改善率 (%)

※R5は見込値



静岡市	0.60	0.50	0.43	0.43	0.58
政令市等	0.33	0.33	0.37	0.36	0.32

<算出式>

$$\frac{\text{改善(更新・改良・修繕)管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100 (\%)$$

<評価>

管渠老朽化率と同様、明確な基準が定められていませんが、静岡市では管渠の状態を適切に把握し改築順序を定め、効率的な改築及び更新を行っているため、管渠の状態は良好に保っています。また、政令市等と比較しても高い値となっています。

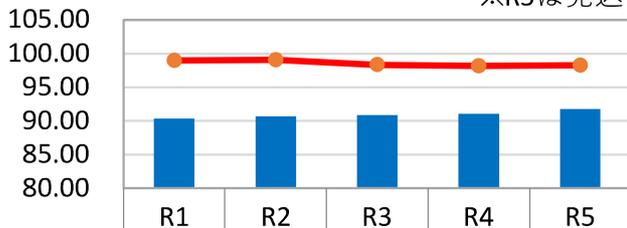
<管渠改善率>

当該年度に更新した管渠延長の割合を示す指標で、管渠の更新ペースや状況を把握するために用いる指標です。数値が2%の場合、すべての管渠を更新するのに50年かかる計算となっています。

図2-6

水洗化率 (%)

※R5は見込値



静岡市	90.40	90.68	90.90	91.10	91.80
政令市等	99.01	99.10	98.36	98.20	98.29

<算出式>

$$\frac{\text{水洗便所設置済人口(戸)}}{\text{処理区域内人口(戸)}} \times 100 (\%)$$

<評価>

新たな管渠の整備等により水洗化率は年々向上しているものの、政令市等と比較して大幅に低い値となっています。水洗化率が向上することによって下水道使用料収入が増加するため、水洗化率の向上は静岡市の課題と捉え、今後も引き続き公共下水道の未接続世帯に対する接続推進活動を行っていきます。

<水洗化率>

処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水を処理している人口の割合を示す指標です。公共用水域の水質保全や、使用料収入の増加等の観点から、一般的に100%となっていることが望ましいとされています。

# 水道料金改定に向けた検討状況について



# 1 水道事業会計の基本方針 ・ 経営課題

## ●水道事業の基本方針

『子どもたち、孫たちの世代に健全で強靱な水道を引き継ぎ、現在の水道サービスの水準を維持できる、持続可能な水道事業の実現を目指す』

**安全・安心**な水を**持続的**に**安定・安価**に供給する



## ●取り巻く経営課題

管・施設の老朽化に伴う

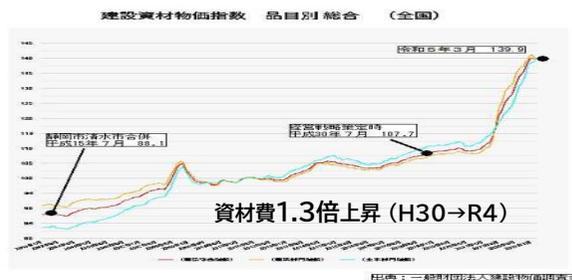
**更新需要の  
急速な増大**



物価高騰に伴い

**投資・維持管理  
コストの増加**

電気料金(R3→R4で45%増)  
資材費(H30→R4で30%増)、労務単価



**人口減少**

R25までに年間の  
料金収入が12%減

**自然災害の  
激甚化**



台風15号直後の承元寺取水口

このほか、『技術者不足』など課題は様々

## 2-1 現経営戦略(R5～R16)～投資財政計画シミュレーション～

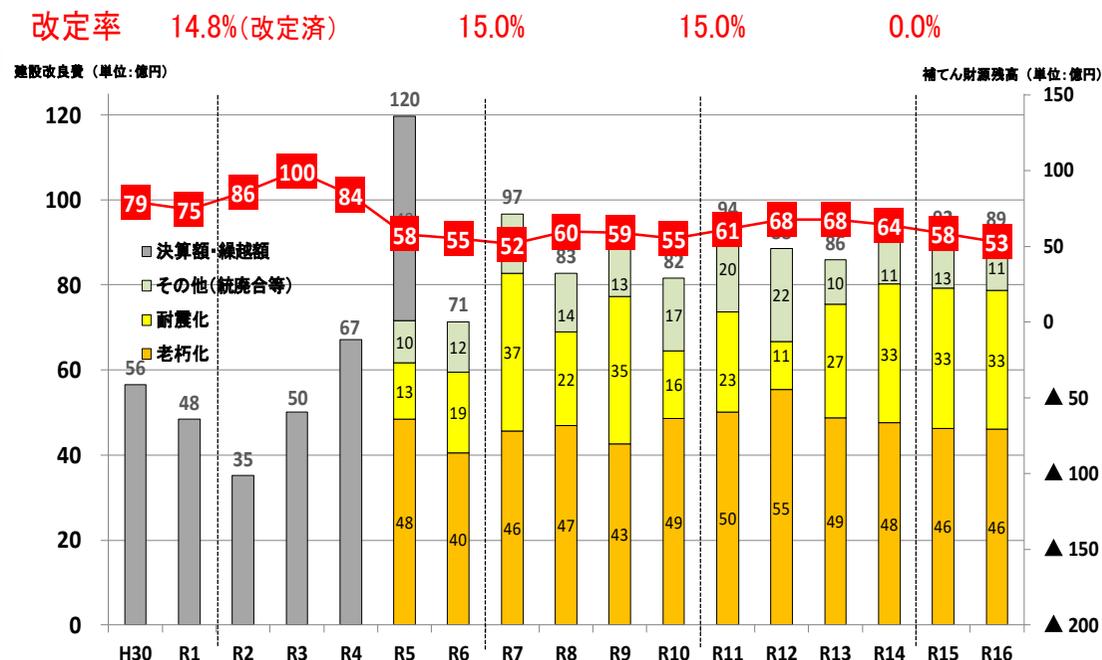
※経営戦略とは・・・各公営企業が、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である。その中心となる「投資・財政計画」は、施設・設備に関する投資の見通しを試算した計画と、財源の見通しを試算した計画を構成要素とし、投資以外の経費も含めた上で、収入と支出が均衡するよう調整した収支計画である。

目標設定

- ・ 黒字経営の維持
- ・ 企業債を経営戦略期間中に減少に転じさせ、次世代にさらに重い負担をつけまわさない
- ・ 4年毎(R2・R7・R11)の料金改定で市民の急激な負担増に配慮



収益的収支(維持管理)



資本的収支(建設投資)

## 2-2 現経営戦略(R5~R16)～料金改定による補てん財源の確保～

【資本的収支】

投資・財政計画（資本的収支）

改定率 14.8%(改定済)

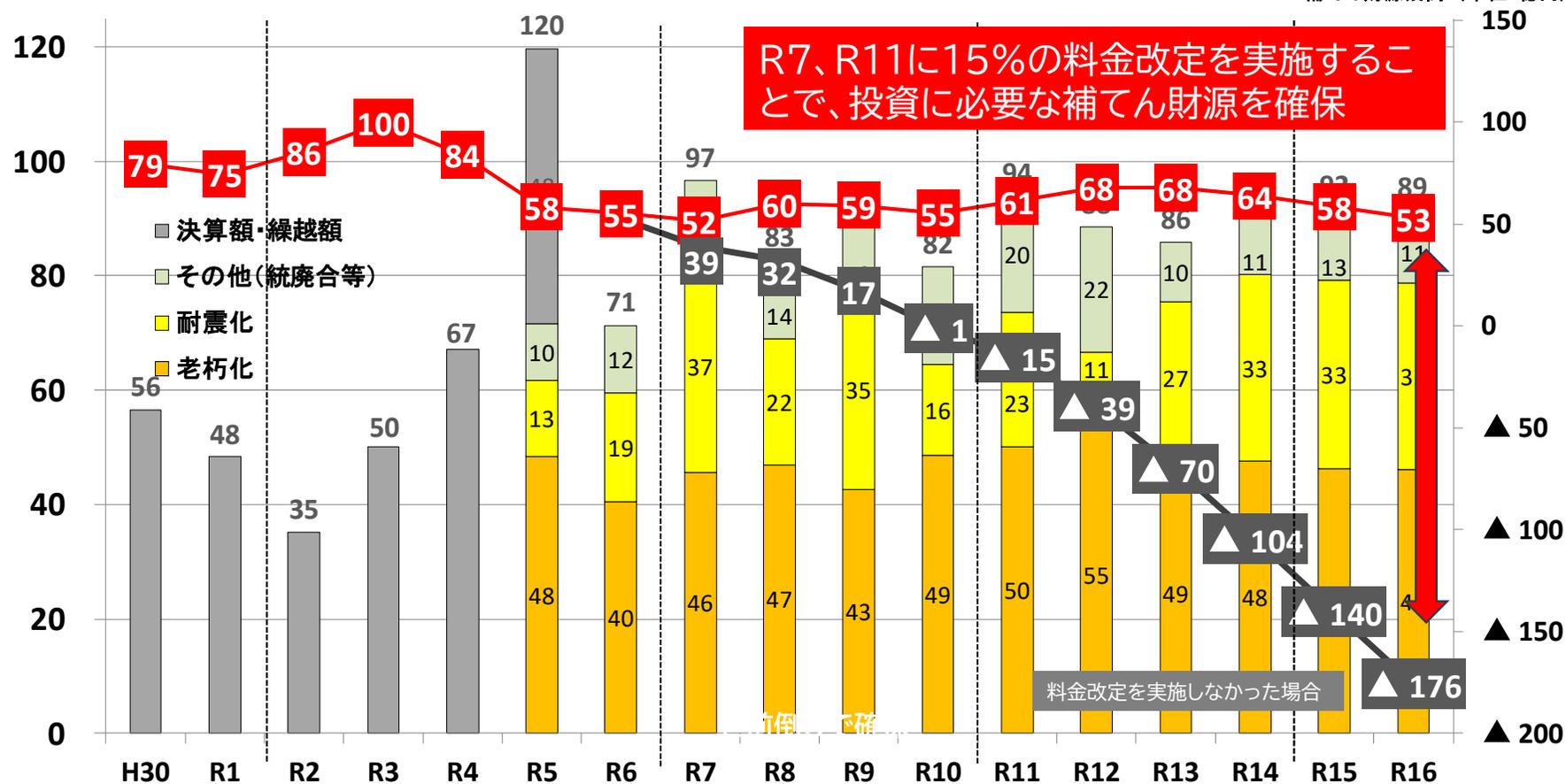
15.0%

15.0%

0.0%

建設改良費（単位：億円）

補てん財源残高（単位：億円）



# 3 上下水道経営管理チームによる投資財政計画の見直し

## 上下水道経営管理チームとは(第1回経営協議会資料より)

### 1 設置目的

上下水道局のミッションは、水道事業においては安全・安心な水を持続的に且つ安定・安価に供給すること、下水道事業においては安定的な汚水処理による良好な水環境の保全と浸水被害を軽減することである。

このミッションを達成しサービスを持続的に提供していくためには、合理的・経済的な投資計画と更なるコスト縮減と効率的な財政計画が必要である。そのため局全体でチームを設置し現在の計画を検証し見直す。なおかつその際は外部アドバイザーの「知」も活用する。

### 2 上下水道事業の課題

- ①人口減少に伴い給水需要が低下する中、物価高騰などによる投資・維持管理コストの増加に対応する必要がある。
- ②耐震化・更新など管や施設の強靭化は既に実施しているが、合理的な整備箇所や優先順位付けの再考、明確な成果目標を示す必要がある。
- ③能登半島地震を受け、新たに浮かび上がってきた液状化への対応が必要である。
- ④経営の観点から明確なエビデンスに基づいた財政計画を策定する必要がある。
- ⑤AI・DXなどの新技術等によるコスト縮減や業務効率化を加速させる必要がある。
- ⑥施設の維持管理、検針料金徴収などに限定されている民間活力の取組を拡充させる必要がある。
- ⑦水道事業が国土交通省所管となり、国は上下水道一体的な組織運営を推進する体制を構築し戦略的な取組を行う方向であるため、本市もその考え方を反映していく必要がある。

### 3 解決の方向性

下記の4テーマを設定し、先進都市の取組などを踏まえ、外部アドバイザーと共に投資計画の見直しなどを行う。

- A: 投資計画の検証・見直し(課題①、②、③、⑦に対応)
- B: 財務分析、財政計画の見直し(課題①、④に対応)**
- C: 新技術の活用(課題①、⑤、⑦に対応)
- D: 官民連携の推進(課題①、⑥、⑦に対応)

投資計画の検証・見直し結果を踏まえ、水道料金改定の要否も含めた財政計画の見直しを行う。

・職員は、チームリーダー1名、テーマごとにチーム員・構成員を配置し、アドバイザーは8名招聘する。

職員配置とアドバイザー

		A 投資計画の検証・見直し	B 財務分析、財政計画の見直し	C 新技術の活用	D 官民連携の推進
職員	チームリーダー			1名	
	チーム員	3名	2名	4名	1名
	構成員	13名	3名	12名	8名
(公財) 水道技術研究センター				1名	
(公社) 日本水道協会		1名			
下水道事業団 (地方共同法人)		1名			1名
国土技術政策総合研究所 (国交省)				1名	
学識経験者		2名	1名	※	1名

※新技術の活用については、検討内容に応じて学識経験者を追加招集する。

## 4-1 財務分析チームにおける財政計画の見直し

### (1) 料金・使用料収入見込みの再精査

現計画の考え方	見直し方針
過去(水道料金10年間、下水道使用料5年間)の実績推移に基づく将来推計	既存の推計方法に将来人口推計予測を反映

### (2) 維持管理費用の再精査

現計画の考え方	見直し方針
令和4年度当初予算額を原則、据置き。 委託料、修繕費の一部の事業は上昇分を見込んでいる。 動力費は、令和4年度当初予算額に単価上昇率見込みを乗じて算出	令和5年度決算額を踏まえ、主な事業について個々に物価高騰等を見込み算出する。 (人件費、委託料、修繕費、動力費等)

## 4-2 財務分析チームにおける財政計画の見直し

### (3) 財源設定時にチェックする財務指標の目標値の再精査

現計画の考え方	見直し方針
損益の目標 ・黒字経営の維持 ・料金回収率100%以上 資金収支の目標 ・適正な補てん財源の確保 企業債残高の目標 ・企業残高の適正な管理	アドバイザーに相談のうえ、 下記4点の財務指標の目標値を決定し、見直し後の財政計画に反映 ・経常収支比率 ・料金回収率 ・補てん財源残高 ・企業債残高

### (4) 経営効率化に係る取組等の再精査

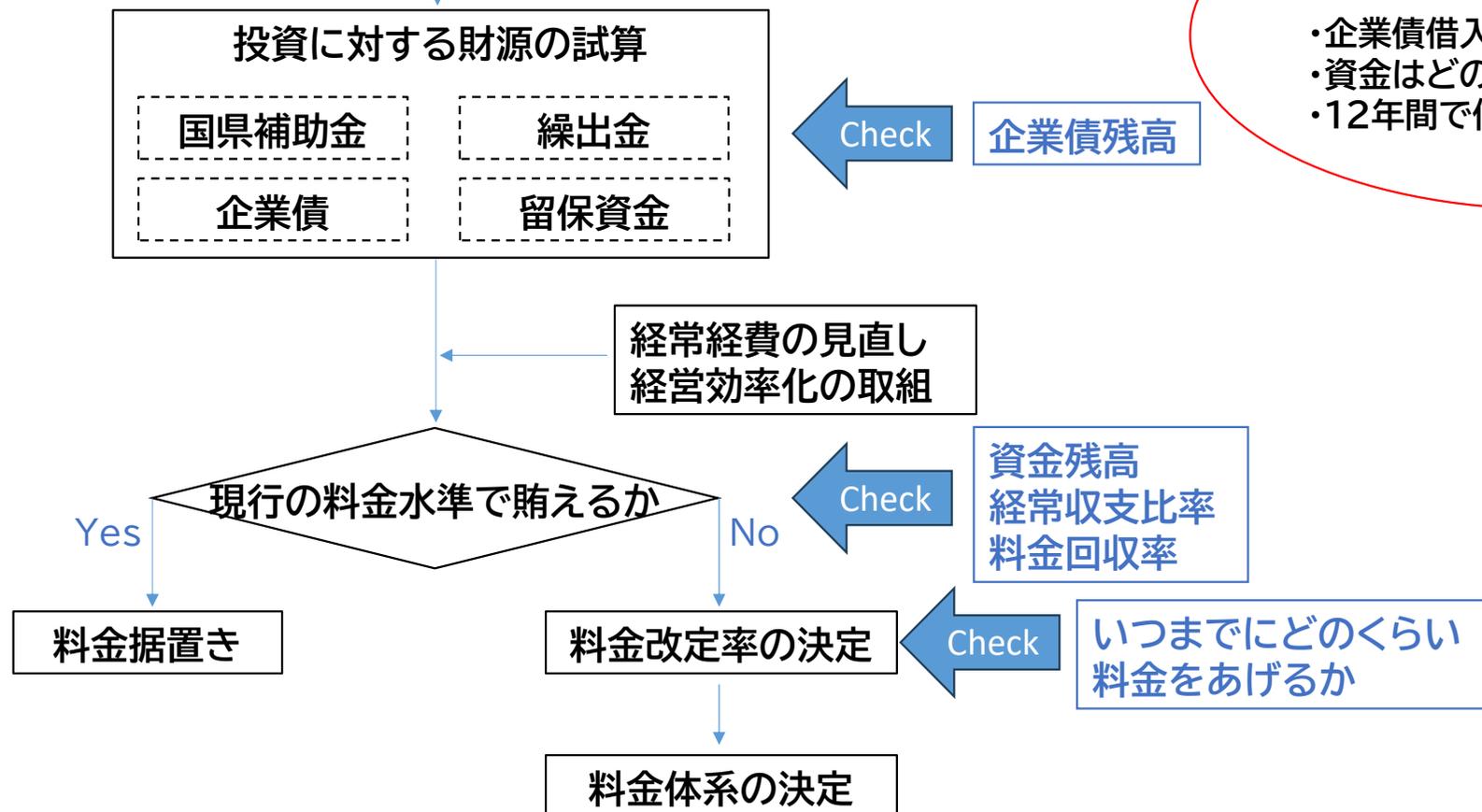
現計画の取組	見直し方針
投資財源の確保の取組 (過去に実績のある国県補助金の継続確保)	・新規メニューの追加又は拡充された補助金の取りこぼしがな いようチェック体制の構築 ・繰出金に関する協議
更なる経営効率化の取組の推進 ・企業債利息の削減 ・口径150mm以下の管材にポリエチレン管を採用 等 (その他の取組については、資料5参照)	〈新たな取組〉 ・新技術の活用、官民連携の推進  〈既存取組の更なる推進〉 ・資産の有効活用、収納率の向上 をはじめ、 新たな経営効率化の取組の効果額を算出し、財政計画に反映

## 5 投資事業費に対する財源設定のフロー

～R6.12 投資額の見直し

### 財源設定の考え方を整理

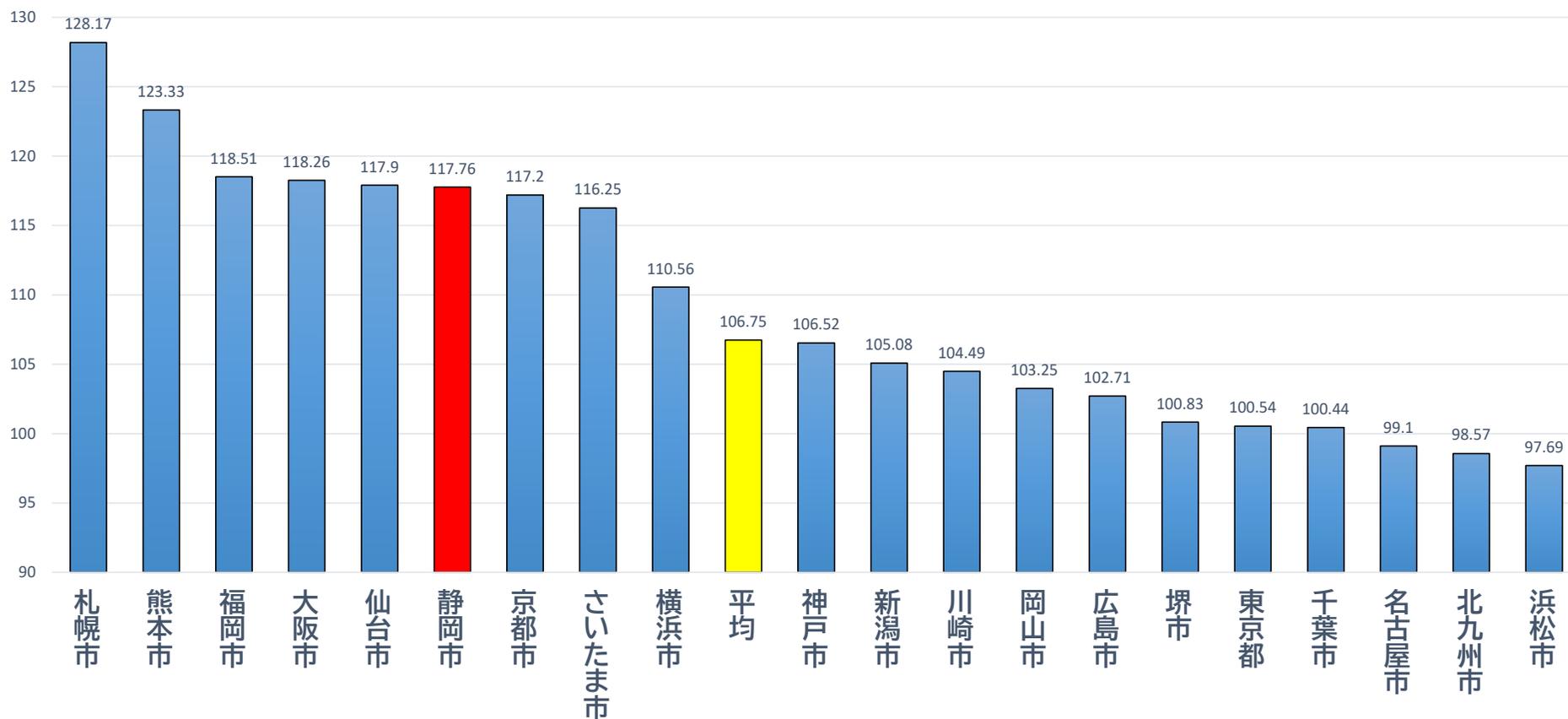
- ・企業債借入の考え方は合理的か
- ・資金はどのくらい留保しておきたいか
- ・12年間で何回に分けて改定するか



## 6-1 経常収支比率(令和5年度決算を反映)

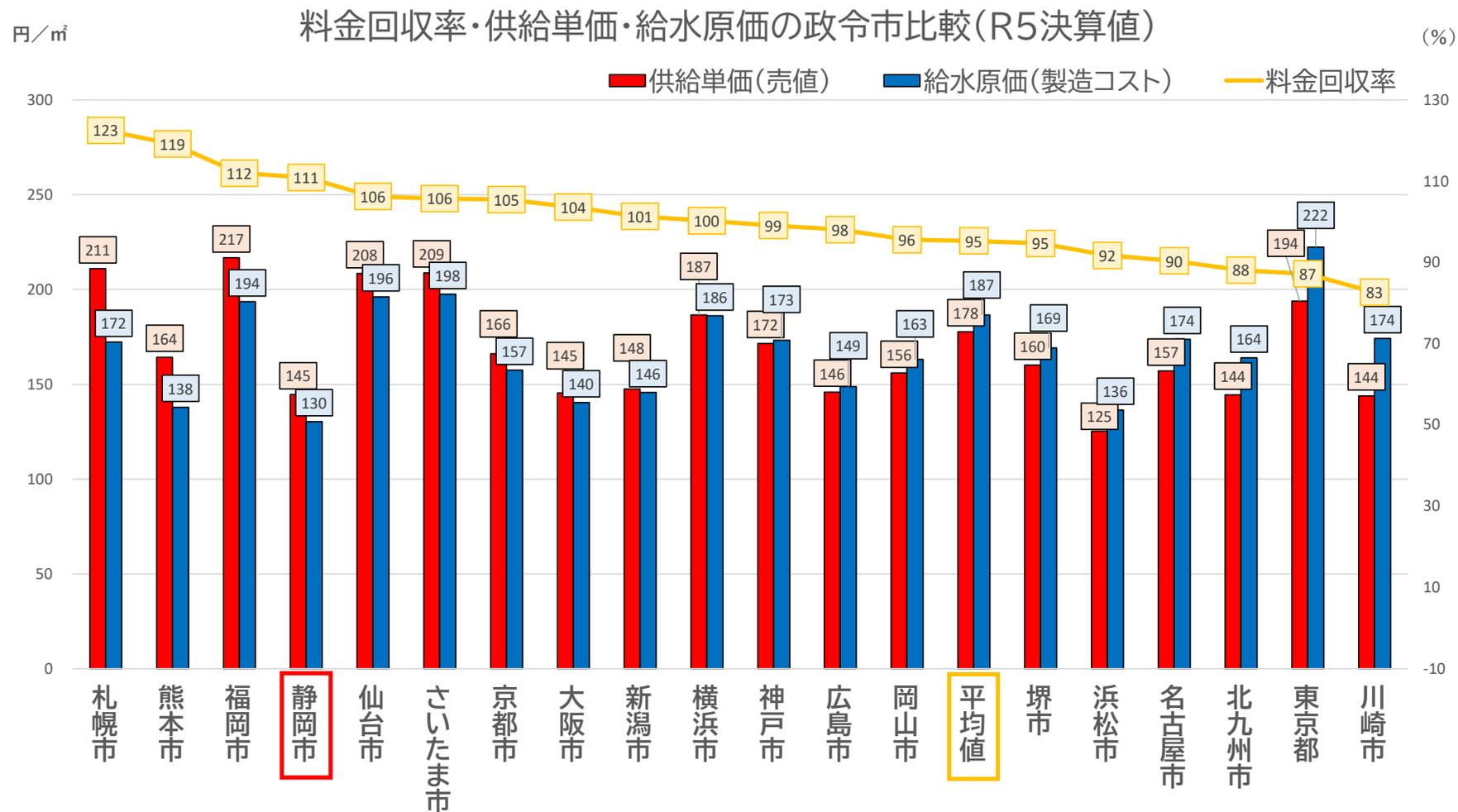
経常収支比率は100%を上回っており、収支は健全な水準である。

経常収支比率(令和5年度決算値) 単位%



## 6-2 料金回収率(令和5年度決算を反映)

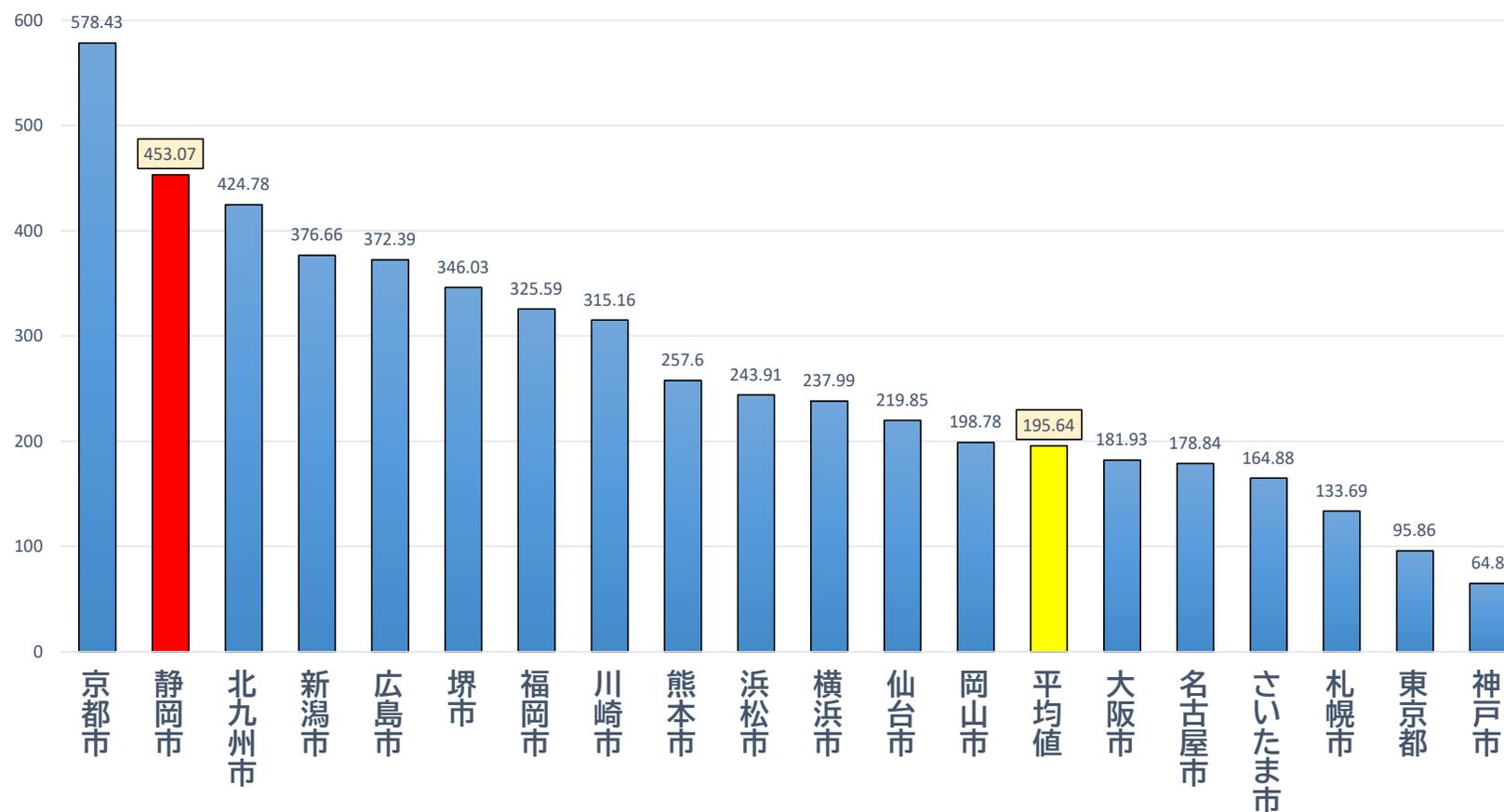
料金回収率は100%を上回っており、給水に係る費用を水道料金で賄えている状態である。



### 6-3 企業債残高(令和5年度決算を反映)

令和5年度末時点の企業債残高を政令市比較した場合、2番目に高く、企業債依存度が高い状態である。

企業債残高対給水収益比率(令和5年度決算値) 単位%



## 7 料金改定の今後について

指標	現状の分析
経常収支比率	経常収支比率は100%を上回っており、収支は健全な水準である。
料金回収率	料金回収率は100%を上回っており、給水に係る費用を水道料金で賄えている状態である。
企業債残高	令和5年度末時点の企業債残高を政令市比較した場合、2番目に高く、企業債依存度が高い状態である。



令和5年度決算値における経常収支比率、料金回収率は100%を上回っているが、令和4年台風第15号や能登半島地震の教訓を踏まえ、災害発生時の対応を見据えた経営維持の観点から、適切な資金や投資の財源を確保していく必要がある。



今年度、経営管理チームによる投資財政計画の見直しにより、適切な資金残高や企業債残高等を確認し、次期料金改定の時期や改定率を検討していくため、令和7年度における料金改定は先送りとする。

第 1 回協議会(5/24)議題等にかかる  
御質問・回答、御意見 まとめ

令和6年8月30日

令和 6 年度 第 2 回 静岡市上下水道事業経営協議会

令和6年度 第1回上下水道事業経営協議会 御質問への回答

No.	議事	御質問	回答
1	その他のご意見・ご質問	資料5の3頁(3)新たな水源の確保で新設井戸調査を実施とありますがどの地域で実施するのでしょうか。	回答課 水道計画課
			今年度に清水区の谷津浄水場内と駿河区の高松中学校内の2カ所で調査を行います。
2	(2)【予算及び決算の概要】 令和6年度 予算・事業 説明	細かなことで申し訳ありませんが、(協議会当日質問し、水道建設・維持課長より回答があった部分) 管路の更新延長の分母が2,700kmと言っていたが、そうするとP2の計算値が異なる? R6更新率、計画値0.96%実施0.97%となるのでは? また、R4の実績実施の0.71%、R51.03%となるのでは? また、望月水道部長の液状化リスク御説明は分かりやすかったです。	回答課 水道建設・維持課
			<p>管路更新延長の分母が「約2,700km」と申し上げた中で、実際の分母は下記のとおりとなっております。</p> <p>R6計画値 26.0km ÷ <b>2,600km</b> = 1.0% (26.0km ÷ 2,700km = 0.96%)  R6実施 26.3km ÷ <b>2,615km</b> = 1.01% (26.3km ÷ 2,700km = 0.97%)  R4実施 19.3km ÷ <b>2,615km</b> = 0.74% (19.3km ÷ 2,700km = 0.71%)  R5実施 27.9km ÷ <b>2,615km</b> = 1.07% (27.9km ÷ 2,700km = 1.03%)</p>
3	(2)【予算及び決算の概要】 令和6年度 予算・事業 説明	今回の差替資料について、どこを修正したか説明がありませんでした。例：更新延長ですが、当初の版は、50.1km (R1~R4実績) となっていて、差替版は、19.3kmとなっています。差替理由の説明不足かも。	回答課 事務局 (上下水道経営企画課)
			<p>「資料5 令和6年度 予算・事業説明：3ページ目中段 成果指標の表 等」ですが、当初は、『R1~R4累計の実績値』を記載しておりましたが、その右に記載されているR5以降の単年度の数字と比較しにくいいため、差替資料については『R4の単年度の実績値』を記載するように修正しております。</p> <p>説明が不足しており申し訳ございませんでした。次回以降、資料送付後に差替資料が生じた場合は、正誤表等を添付し、説明するよういたします。</p>

No.	議事	御質問	回答
4	(1)【政策、施策及び事務事業の進捗管理】 第5次中期経営計画の評価方法について	事務事業数の整理、24事務事業から今少し絞れないのか？	<p>回答課 事務局（上下水道経営企画課）</p> <p>第4次中期経営計画（計画期間：令和元年～令和4年）では、事務事業数は50事務事業でしたが、協議会委員の皆様のご意見等を踏まえ、第5次中期経営計画（計画期間：令和5年～令和8年）では、登載事務事業を整理し、24事務事業としました。また、上下水道局からの説明対象を限定し、説明時間も短縮するなど、効果的・効率的な協議会運営に向けて努めているところです。次期改定時においても、協議会委員の皆様のご意見を考慮しながら、検討を進めてまいります。</p>
5	(2)【予算及び決算の概要】 令和6年度予算・事業説明	質問にもあったが、企業債の金利など交渉の余地がありませんか。（1%程度と言っていたが、高すぎませんか。）	<p>回答課 上下水道経理課</p> <p>財政融資資金については、直近の借入実績が30年借入で利率1.4%となっていますが、財務省が定めている全国一律の利率となるため、利率交渉の余地はありません。銀行等引受債については、直近の実績が水道事業は10年借入で利率0.02%、下水道事業は20年借入で利率0.3%となっており、見積執行により借入先を決定しているため、利率を低く抑えることができます。</p> <p>なお、令和5年度の財政融資資金の借入については、償還方法を「元利均等方式」から「元金均等方式」に変更するなど、支払利息削減に向けた取組みを行いました。引き続き支払利息削減に向けて取り組んでいきます。</p>
6	(2)【予算及び決算の概要】 令和6年度予算・事業説明	浸水センサ設置業務について、実際に使用可能になる時期はいつ頃でしょうか。 このサイトが稼働し始めると巴川流域の方たちは、とても助かると思います。 またサイト稼働時には、効果的な周知徹底をお願いいたします。	<p>回答課 下水道計画課</p> <p>浸水センサによる情報は、危機管理課が構築を進めている「静岡型災害時情報サイト」を介して令和7年1月より市民の皆様提供可能となる見込みです。</p> <p>なお、運用開始に合わせ、出前講座や市公式SNS等を活用して効果的な周知を行います。</p>

No.	議事	御質問	回答
7	(4)【その他】 令和6年能登半島地震災害支援状況について	もし静岡市が同じように被災した場合、同じような支援を受けることができると考えていいのでしょうか。	回答課 上下水道経営企画課
			<p>本市が大規模災害により被災した場合、水道につきましては日本水道協会静岡県支部や中部地方支部、19大都市との間で災害時に相互に協力するよう協定を締結しています。また、川崎市とは個別の覚書を締結し、相手方が被災した場合には相互に支援する関係を構築しています。</p> <p>下水道につきましては、「下水道災害時における大都市間の連絡・連携体制に関するルール」に基づき、他都市から応援をしてもらうこととなっています。</p> <p>また、水道組合や建設業協会等を含む民間事業者と、上下水道施設の復旧、機械・電気設備の復旧、災害応急対策時の資機材や燃料、労力等の提供等に関する協力協定を締結し、訓練等を実施することで、災害から迅速な復旧のための体制を構築できるよう努めています。</p> <p>ただし、国土交通省中部地方整備局が主催する「中部圏大規模断水対策協議会」では、今回の能登半島地震を受け、南海トラフ地震等地震災害を起因とした大規模断水時には、給水車が不足、こないことを想定し、給水車に依存しない現実的な応急給水確保対策をまとめており、短期・中長期的な取組の整理を行い、国への概算要求へ繋げる方向です。本市としましても、国の動きを注視しながら、他水道事業者から応援の給水車はこないということも想定し、給水車に頼らない応急給水拠点の整備を検討していく必要があります。</p>
8	その他のご意見・ご質問	PFASの件 管轄外とご担当の方がおっしゃってましたが、実際三保地区の方は井戸水を使用してる様なので、もう少し詳しく安全性等を聞かせて頂きたいです	回答課 事務局（上下水道経営企画課）
			<p>8月30日（金）の第2回協議会では、PFASに関する全体的な対応に直接携わる静岡市環境局の担当課から市としての対応状況をご説明させていただきます。</p>
9	その他のご意見・ご質問	PFASについての説明があまりにも中途半端だったため、不安を覚えましたが、8月30日次回の協議会で説明して下さいとのこと、よろしく願いいたします。	回答課 事務局（上下水道経営企画課）
			<p>8月30日（金）の第2回協議会では、PFASに関する全体的な対応に直接携わる静岡市環境局の担当課から市としての対応状況をご説明させていただきます。</p>
10	(2)【予算及び決算の概要】 令和6年度予算・事業説明	当日の質問にもございましたが、水道管の更新の全体が見えず。いったい静岡市のどの範囲にあたいしているのか？が視覚的にもわかると数字と合わせ見やすいと思います。	回答課 水道計画課
			<p>今後、水道管の更新に関する説明をする際は、必要に応じて、水道管等の位置を示した市全域の図面を提示しながら、視覚的にもわかりやすいようにご説明させていただきます。</p>

**(1)【政策、施策及び事務事業の進捗管理】****第5次中期経営計画の評価方法について**

No.	御意見
1	事務事業数の整理でもわかりやすい説明をお願いします。
2	評価対象を11項目に減らしたことで、上下水道局さんと、委員の効果的かつ効率的な協議ができると思います。他の事業についても、引き続き質問と意見がある時には、お伝えさせていただきます。
3	論点となる項目が絞られること、一方で質問対象は全項目にすること、等、管理効率化の面でも良いと思います
4	意見聴取時間を十分に確保していただける方針に移行することは大変画期的なことです。これまで以上に効率化を図ることに到るのでは。
5	改善されたと思います。
6	・評価方法の見直しについては、効率的な業務遂行に配慮した良い形だと感じました。 ・委員は、事業執行側が実績に対し定量的に評価した根拠やその考え方について、評価する形が望ましいと考えます。
7	経営協議会委員からの定量評価の廃止は、当然のことだと思います。あまり意味のないことに時間を割くことなく、ポイントを絞って短時間で分かりやすい説明を、これからもよろしくをお願いします。

## (2) 【予算及び決算の概要】令和6年度 予算・事業説明

No.	御意見
1	<p>会議でも意見が出たように企業債について気がかりです。少子化等で確実に将来の人口減少は加速していくことを念頭にFP等専門家を交えてその時々々の情報にアンテナを立て効果的な対策を求めます。</p>
2	<p>漏水対策を強化するために、監視型漏水調査業務や衛星画像等解析での調査を委託することは、調査の効率化にも繋がり有効だと思いました。</p> <p>企業債の代わりに、市民にお金を出してもらおう提案は、可能であれば検討いただけたらと思いました。市民にとってのアピールになり、市民も自分ごととして捉える機会になると思います。</p> <p>浸水センサ設置業務について、実際に使用可能になる時期はいつ頃でしょうか。このサイトが稼働し始めると巴川流域の方たちは、とても助かると思います。またサイト稼働時には、効果的な周知徹底をお願いいたします。</p>
3	<p>将来を見据えた資金調達の多様化の検討をよろしくお願いします</p>
4	<p>大変だと思いますが、さらに理解しやすい説明にした方がいいと思います。</p>
5	<p>災害が続く様子を見ていると、老朽化した水道管、下水管をいかに早く強靱化していけるかが、今一番大事だと思います。また、いつも鈴木会長がおっしゃっているように、企業債残高を、将来世代に残すことなくどれだけ早くマイナスにできるかを本気で考えなければいけない、正に正念場ではないでしょうか。</p>
6	<p>災害支援等に伴い、通常よりも少ない執行体制と想定しますが、よりいっそう効率的で着実な業務の遂行を期待しています。</p>

### (3) 【その他】上下水道経営管理チームの設置について

No.	御意見
1	ミッションを達成するために外部アドバイザーの「知」の活用に期待します。
2	専門家チームが知恵を出し合うことによる、静岡市上下水道局がよりよい運営や改善ができることは有意義だと思います。専門家チームでの協議内容の報告に期待します。
3	新技術をきちんと活用できるための組織体制の構築をよろしく願います
4	料金・使用料の改定案と各種計画案についての活発、画期的な意見を外部アドバイザーに期待します。
5	目標値の数値など明確に示していただきたい。
6	うまく機能することを期待しています。
7	水道事業が下水道事業と同じく国交省の管轄になったのを機に、局全体でプロジェクトチームを編成し、将来を見据えて合理的に計画を見直していくというのは、私自身も待ち望んでいた方向性です。外部アドバイザーを招聘し、思い切った計画の見直しにも着手してもらいたいと、期待しています。
8	質問にもあったが、企業債の金利など交渉の余地がありませんか。（1%程度と言っていたが、高すぎませんか。）
9	正直、今まで上下水道が別であった事に驚きました。「出せば流す」を一体として考え、未来を見据えた運営をしたいだけのように期待いたします。

#### (4) 【その他】令和6年能登半島地震 災害支援状況について

No.	御意見
1	具体的な支援作業や流れがよく見えたこと、他の被災地との被災率の比較がよくわかったことが良かったです。
2	<p>能登半島地震が発生と同時に支援を開始して下さりありがとうございます。 静岡市の職員や業者の方々が、こんなにも大勢が上下水道の復旧に関わって下さっていることを知り、頭が下がる思いです。 その問題点を、静岡市の災害対策に取り入れてくださることに感謝いたします。</p> <p>資料の写真から、液状化が起こるとマンホールが浮上することがよく分かりました。 初めてみる写真で驚きました。</p> <p>見せていただいた支援状況報告を、ぜひ静岡市民の皆さんにも知ってもらいたいです。 上下水道局さんの頑張りと努力をわかって欲しいです。</p>
3	<p>災害支援状況、よくわかりました。対応おつかれさまでした。 支援を通じて広域アライアンスや対応ノウハウの伝承をしていくことが 本市においても重要な災害対策になると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします</p>
4	元旦に地震、吃驚しました。静岡市として今回の災害支援を頼もしく思っております。
5	<p>応急給水・復旧活動支援、ご苦労様でした。 いつ何時、静岡市にも地震災害が起こるかわかりません。他県との協力関係をしっかり構築してください。</p>
6	静岡市さんをはじめ、日本全国から多くの職員や工事業者の方により、能登半島地震への支援が行われていることを改めて、感じました。能登半島の一日も早い復興を願います。
7	<p>発災直後からの支援にご尽力されている事がよくわかりました。ありがとうございます。</p> <p>静岡市は元々は海であった場所が多し。 どうか、今回の支援からわかった事や危惧される事を静岡市の対策として生かしていただけますよう切に願います</p>
8	災害支援に力を尽くして下さり、心から感謝申し上げます。液状化や断水など、思ったよりも復旧に時間がかかっています。また現場の皆さんが高齢化していることが、復興の妨げになっているように感じます。他県からの応援がないと、とても復興まで行きつかないですね。

## その他意見・質問

No.	御意見
1	<p>協議会に出ることで学ばせていただくことが多いです。今年度も勉強させていただきます。 よろしく申し上げます。</p> <p>いただいたCD、「静岡市下水道100のあゆみ」は、地元の小学校2校で有効利用できないか聞いてみようと思います。</p>
2	<p>特にありません。今年度もよろしく願いいたします。</p>
3	<p>災害支援に行かれた方々、本当にお疲れ様でした。皆様のご尽力と献身は素晴らしい事と思います。支援活動に携わる方々の努力が、被災地の復興と希望に繋がると 思います。</p>